

それゆえ清水寺では、開山を延鎮、建立を田村麻呂と位置づけている。平成6年（1994）には清水の舞台の東側に「阿弓流爲母禮之碑」が建立され、現在も田村麻呂と阿弓流爲、そして田村麻呂と清水寺との縁を垣間見ることができている。



弟の崇りが恐い？ 桓武天皇が 平安京への遷都を急いだ本当の理由

奈良時代の終わりに即位した桓武天皇は、奈良時代の都である平城京の最後の天皇でもあった。その後天皇は、長岡京、平安京と2度の遷都を行っている。だが、長岡京から平安京に都が遷されたのはわずか10年後のこと。莫大な費用と労力をかけてまで、なぜ桓武天皇は平安京への遷都を急いだのだろうか？

桓武天皇の最初の遷都、奈良の平城京から山城（現・京都府）の長

岡京に遷ったのは、即位からまもない延暦3年（784）のことだった。既存の仏教勢力や貴族勢力を遠ざけるため、人口が増えすぎたため、また平城京の生活排水が深刻な衛生問題になっていたなどの理由がある。ところが、長岡京はまだ完成もしていない段階で捨てられてしまう。長岡京に遷ってから10年後の延暦13年（794）に、桓武天皇は平安京への遷都を決断したのだった。

そのきっかけは、延暦4年（785）に長岡京の造営責任者である藤原種継が何者かによって暗殺されたことにあった。種継は桓武天皇が親任していた寵臣で、そもそも長岡京遷都は種継の提案だった。

暗殺の首謀者はすぐに判明する。大伴継人、大伴竹良ら数十名が捕らえられ、そのなかには事件直前に病死していた歌人・大伴家持の名前もあった。さらに黒幕として浮かび上がったのは、桓武天皇の弟で皇太子でもある早良親王である。事件の関係者には斬首刑や流刑など厳しい処罰が下され、早良親王も無罪を主張したが受け入れられず、

平城京

現在の奈良市西方にあった奈良時代の都。710年に元明天皇が藤原京から遷都して以降、784年に桓武天皇が長岡京に遷るまで繁栄した。唐の都・長安にならってつくられ、東西4・3キロ、南北4・8キロ。碁盤の目のように整然と区画され、中央北端に平城宮が置かれていた。